【教育理念】児童の笑顔、教師の笑顔、保護者の笑顔が　魅力ある学校を作る

㋕んどういっぱい　㋔キドキいっぱい　㋒クワクいっぱい　㋖ラキラ輝く　大野木場小学校便り　№６５
令和８年１１月　５日（木）

かどわきっ子

南島原市立大野木場小学校
校　長　　森田　純弘

秋の遠足

さわやかな秋空のもと…という訳にはいきませんでしたが、２日(月)に延期していた「学習・鍛錬遠足」を無事に終えました。当初予定していた１０月３０日(金)との二日間、お弁当や雨具等の御準備をしていただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、子どもたちは有意義かつ楽しい時間を過ごすことができました。

低学年は「ひょうたん池公園」へ行き、秋見つけを楽しみました。生活する中に「秋」はたくさん感じられるのでしょうが、お友達と一緒に見つける秋は、また違ったものがあります。「これオレンジだよ。」「このどんぐり大きいね。」「赤ちゃんどんぐり見つけたよ。」楽しそうな笑顔の連続でした。

中学年は「雲仙岳災害記念館」を中心として、普賢岳災害についての学びを深めました。かさ上げ、造成された住宅地や「われん川」についての学びなど、実際に行っての学びは価値あるものです。映像とは違った趣があります。災害記念館で噴火の仕組みについて学び、道の駅「ひまわり」では、土石流で被災した家屋を実際に見て学びました。

高学年は普賢岳には登れませんでしたが、妙見岳に登ることができました。ゴルフ場そばの池ノ原駐車場を出発し、仁田峠、その後妙見岳へと歩を進めました。私も午後から同じルートで子どもたちとの合流を目指しましたが、仁田峠手前で下ってくる子どもたちとの合流と相成りました。久しぶりに上る山道のきついこと。子どもたちは励まし合いながら、遅れる子を待ちながらみんなで頑張ったそうです。

それぞれの学びが、今後の生活や学習に生かされることを期待しています。

ココロねっこ運動



７月と１１月は、「長崎県ココロねっこ運動強調月間」です。今年度から新しいキャッチフレーズとなりました。

こどもの幸せを社会のまんなかに
～できることから、大人から～

大野木場小学校では、６月の代表委員会で学校メディア宣言を作りました。子どもたちの取組みに応援をお願いします。

◆メディアは、１～３年生は６０分、
４～６年生は９０分。
寝る１時間前にはやめよう。

ちょっとブレイク



～【言語化能力②】～

そもそも「言葉の力」とは、成長とともに自然と伸びていくものなのでしょうか？

残念ながら答えは「ＮＯ！」です。適切にインプットとアウトプットをしていかなければ、言語化能力は育っていきません。現在の子どもたちは、動画を視聴したりゲームをしたりする環境が整っているせいか、読書量が減っているとも言われています。では、どうやって言語化能力を育てればいいのか。

親の力①「最初から否定をしない」

子どもの発言に対して、「そんなこと言っちゃダメ。」「それは違うよ。」「あなたには無理だよ。」こんな言葉、投げ掛けたことはありませんか？

子どもは、まず聞いてほしい・受け止めてほしいのに、否定をされると何だか損をした気分になります。「言語化って損だな。何も言わない方がましだ。」という思考に陥り、だんだんと会話は少なくなり、親は子どもの気持ちに気付きにくくなります。だからこそ、親がすべき第一は、否定をしないことです。

「嫌だと思ったんだね。」「そんなふうに考えたんだね。」「教えてくれてありがとう。」やわらかく受け止めてあげることが、子どもの次の言葉を引き出すことにつながります。